

れきしみち

2. 開館30周年記念 巻頭特集「歴史博物館30年を振り返って」
4. 開館30周年記念特別展「家康と松平一族」
6. 特別展記念 松平一族講座・松平シンポジウム紹介
7. 特別展関連イベント紹介・歴博 TOPIC
8. 博物館実習報告・市民ギャラリーよりお知らせ

2021.1
No.119

一族、ここに集う



関ヶ原合戦図屏風
(関ヶ原町歴史民俗学習館)



安城松平家四代 松平清康
(作画：すずき孔)



平成2年
完成間近の歴史博物館



— 特集 —
開館30周年記念 巻頭特集
特別展「家康と松平一族」紹介



入館者100万人を達成！



黒糸絨三葵紋柄具足(松平信一所用具足)
(上田市立博物館蔵)

安城市
歴史博物館

Anjo city Museum of History

令和2年度 博物館実習 報告



当館では博物館実習を毎年実施しています。学芸員の資格の取得を目指す学生が博物館で実務を学ぶために行うもので、令和2年度は7名の学生を受け入れました。実習は計6日間行い、施設内の見学に始まり、博物館業務や文化財保護行政などの講義を行いました。この実習で重きを置くのは、実際に資料に触れながら学ぶ実技の実習と、チームに分かれて取り組む常設展示の入替えです。

常設展示の入替えでは、チームに分かれ、与えられたコーナーの展示替え内容やコンセプトを話し合っており決めています。今年度は「人面文土器」と「江戸時代の旅と妖怪」のチームに分けられました。

「人面文土器」のチームでは、亀塚遺跡で出土した人面文壺

形土器を中心に、東海地方で出土された土器を展示しました。一方、「江戸時代の旅と妖怪」のチームでは、錦絵に描かれている妖怪や「東海道中膝栗毛」を軸に展示を構成しました。展示する資料を数多くの中から選び、各展示ケースへ単に配置するだけではなく、展示から伝えたいことを明確にしなければなりません。更に、資料の大きさや形はもちろん、資料同士の関連性も重要となります。実習生たちはそれらを意識しながらレイアウトやキャプションを作成することに苦心していました。

終始グループ内で検討し、職員からの指導をもらいながら無事に展示替えを終えました。最後に実施した、お互いの展示内容についての発表では、各チームの取り組みや職員からの講評を通して、新たな視点や考え方を学ぶことができました。

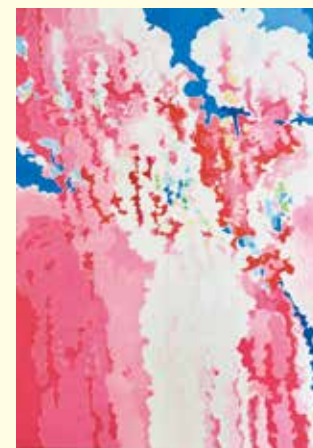


令和3年度 博物館実習生の 募集

令和3年度博物館実習の実習生の募集を行います。実習は令和3年7月下旬～8月上旬の6日間の予定です。安城市歴史博物館のホームページより申込書をダウンロードし、安城市歴史博物館受付までご持参ください。
申込期間：令和3年2月2日(火)～3月5日(金)

安城市民ギャラリーよりお知らせ

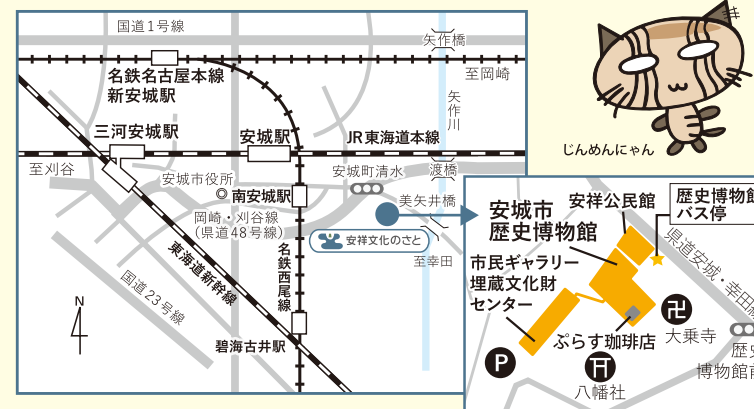
市民ギャラリー企画展「染織工芸の技」



加藤伴子《花しだれ》

「染」と「織」の作品を中心に展示します。4人の作家の制作工程もご覧いただきながら、奥深い染織工芸の世界をご堪能ください。

【開催期間】 令和3年1月29日(金)～2月13日(土)
【時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)
【場所】 展示室D・E
【観覧料】 無料



安祥文化のさと 「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

全館共通事項 住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00 TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600	安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00 TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600
安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00 TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491	安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00 TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館
【URL】 <https://ansyobunka.jp/>



歴史博物館三〇年を振り返って

安城市歴史博物館館長 片岡晃

安祥城址公園のランドマークとも言える「笹の塔」の上から眺める風景が私は好きです。南東方面を見て鹿乗川流域には古代から悠々と人々の営みが継続していたことを想像したり、東へ北へ西の方向に目をやりながら安城松平家の歴代当主は、どんな気持ちで岡崎へ尾張方面を見ていたのだろうと静かに思いをはせたりする、そんな時間が好きです。

安城市歴史博物館は、平成三年（一九九一年）二月、愛知県のほぼ中央に位置する岡崎平野の一角、徳川家康の源流である安城松平家のゆかりの地、安城城址の地に開館しました。

令和となり、三十年目を迎える昨年十月末には、来館者百万人を達成することができ、安城市民はもとより県内外の皆様幅広くご利用いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

この間、当館は、先人の残した貴重な文化遺産の展示・観覧を通して、歴史や文化と和やかな対話のできる「開かれた文化施設」であるよう努めてきました。また、「生涯学習」の拠点として、郷土の歴史を学ぶ人々が気軽に活用できるような心を配りながら、着実に歩ん



完成間近の歴史博物館



完成間近の城址公園



耐震化改修工事後のエントランスホール

きました。令和元年（二〇一九年）には、施設の老朽化対策や非構造部材耐震化のため、半年間休館して大規模な改修工事を実施し、令和二年四月に再オープンしました。

私事も交えながら、当館の三十年を振り返ります。博物館は、「学校教育との連携を深め、子どもたちに生きた体験学習の場を提供できる教育施設」としての性格も兼ね備えています。開館前、見学学習が有意義なものになるように、「安城市歴史博物館 見学の手引」を作成することに、幸いにも私は編集委員の一員としてお仕事をする機会を得ました。常設展の展示物を何度も見て、小中学生の興味を喚起するような視点を必死で探していたことを覚えています。

当館の常設展は、安城市を軸とした西三河の歴史と文化が時代毎に展望できるように構成されています。西三河は、日本における東西文化の交流地域です。原始・古代には西（大和・京）からの風を受け、中世・近世には東（鎌倉・江戸）からの風を強く受けることになりました。この地域が東西文化の風をどのように受けとめ、くらしと文化をどう築いていったかを表現しています。

また、当館の特別展・企画展は、年五回開催しています。「安城市歴史博物館三〇年のあゆみ」にもありますように、当館は、市民の皆様により、地方史への関心を深め、歴史への知的好奇心心を満たしていただけるように、世相を敏感に捉えて、もう一度見たいくなるような展示を企画・運営してきました。

さて、コロナ禍だけではなく昨今の社会・経済環境の不安要因をあげればきりがありません。少子・高齢化の進展、情報通信技術の急速な発展等、様々な要因から博物館の入館者数は全国的に頭打ちの状況にあり、当館においても同様な状況にあると思います。だからこそ、目先のことでなく、十年先、二十年先を見据えた中長期的なものの見方、柔軟な発想で博物館の在り方を考えていかなければなりません。これからも今まで以上に、多くの皆様にご利用いただき愛される博物館、「安城の歴史と文化」を守り抜く博物館を目指して努力する所存です。皆様のご理解、ご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。



小中学校の見学学習



改修でレイアウトを変えた常設展「西からの風（安城の古代）」コーナー

安城市歴史博物館30年のあゆみ (年度別)

平成2年度

- 安城市歴史博物館開館（平成3年2月8日）
- 開館記念特別展「再発見・安城の文化財」
「かたち」に託す「この世界」を開催

平成5年度

- 入館者10万人達成

平成6年度

- 博物館法に基づき登録博物館に承認

平成8年度

- 入館者20万人達成
- 開館5周年記念特別展「愛知の中世陶器」
「渥美・常滑瀬戸」を開催

平成12年度

- 開館10周年記念特別展「弥生の絵画 倭人の顔」
「描かれた2000年前の世界」を開催

平成15年度

- 安城七夕まつり第50回記念特別展「日本三大七夕」
七夕「額」飾りの世界」を開催
- 安城市埋蔵文化財センター、安城市民ギャラリーが開館（平成15年11月19日）

平成17年度

- 愛・地球博一市町村一國フレンドシップ事業特別展「北歐デンマークの輝き」
「王室銀製品と友好都市コリンクのコレクション」を開催

平成18年度

- 第1回「安祥文化のさとまつり」を開催

平成22年度

- 開館20周年記念特別展「描かれた農 四季耕作図」を開催

平成25年度

- 新美南吉生誕100年記念事業特別展「南吉が安城にいた頃」を開催

平成27年度

- 都築弥生誕250年記念事業特別展「台地を拓く都築弥生の夢」を開催

平成28年度

- 指定管理者制度を導入
- 皇太子徳仁親王殿下（当時）が三河万歳を鑑賞
- 「人面文壺形土器」が国の重要文化財に指定

令和元年度

- 耐震改修工事のため休館（令和元年9月2日～令和2年3月31日まで）

令和2年度

- 入館者100万人達成
- ※P.7にて紹介しています。ぜひご覧ください。
- 開館30周年記念特別展「家康と松平一族」を開催



開館30周年記念**特別展**

家康と松平一族

開催期間

令和3年
1月30^(土)日～3月7^(日)日

第1会場 安城市歴史博物館

第2会場 安城市民ギャラリー

休館日 毎週月曜日

観覧料 800円(中学生以下は無料)

平成三年二月に開館した安城市歴史博物館は今年開館三〇周年を迎えます。これを記念し、安城と関わりの深い松平氏に焦点をあてた特別展「家康と松平一族」を開催します。

第一章

一族が活躍した時代

松平氏は名字の地、松平郷（豊田市）から興りました。初代親氏が廻国の末、三河国賀茂郡松平郷の松平信重に入婿したことが始まりとされています。親氏は、買得によって土地を集積し、二代泰親・三代信光が室町幕府と結びつきを持つことで所領の拡大を図り、三河各地の所領に一族を配置しました。この頃、松平一族の竹谷・安城・形原・大草・五井・深溝・能見・長沢の八家が分立しました。

四代親忠は安城松平家の初代でした。親忠の代に、



松平信光画像（岡崎市萬松寺蔵）

大給・桜井の松平家が分立しました。親忠は、分家ながら頭角を現し、五代長忠・六代信忠の代には宗家の岩津松平家が滅亡したことで、安城松平家に宗家が引き継がれます。長忠の代に福釜・藤井・青野（東条）の三家が分立しました。その後、松平一族は、宗家を中心に一族一揆体制で勢力拡大に邁進しました。七代清康は安城松平家の嫡流ですが、岡崎松平家などの後ろ盾のもとで当主となり、本拠地を安城から岡崎に移しました。清康は東三河から尾張に勢力を誇示しましたが、天文四年（一五三五）に守山崩れで横死し、その後一族内では宗家当主をめぐる内紛が起きました。

八代広忠の時代になると、尾張織田氏や駿河今川氏が三河に侵入してきたことにより、松平諸家は他勢力との結びつきを求めました。安城城の戦い後、今川氏が三河支配を強めていくと、諸家の中には直接今川氏の体制に組み込まれる家があらわれます。このとき、

宗家も同様の立場をとったことで、宗家の求心力は失われていきました。守山崩れ後に追放された広忠を岡崎に帰還させたのも松平諸家の後に譜代家臣となった者達でした。宗家ではそれまでの一族一揆体制ではなく、譜代家臣や新たに家臣に加わった小領主などが松平諸家の軍事力と肩を並べるほどに発展していきました。この一族一揆からの脱却を図る段階で家康は生まれました。



文龜元年(1501)8月16日 松平一門連判状(大樹寺文書)

第二章

家康のもとの活躍

永祿三年（一五六〇）の桶狭間の戦い以降、家康が今川氏から独立すると、それまで個別に今川氏の支配に組み込まれていた松平一族は松平宗家の家康に従うようになりました。

その後家康は、三河一向一揆、三河・遠江平定、武田氏との一五年間に及ぶ抗争、天正壬午の乱、豊臣秀吉との対立から臣従を経験します。その一方で秀吉は、小田原の役、奥羽への出兵などを経て、全国統一を成し遂げました。

天正十八年（一五九〇）八月に家康は関東に移封されると、それまでの領国であった三河・遠江・駿河・甲斐と信濃国の半国分には豊臣大名が移ってきました。松平一族は家康とともに領国を取り戻すために貢献します。

家康は永祿九年に徳川に改姓し、一族と一線を画しますが、家格的には松平姓は家康の親族あるいはそれに準じる家とされ、異父弟の久松氏や東条松平の家老松井氏などは家康の自立時から活躍し、松平姓を与えられました。また、家康の娘が入嫁した奥平氏、家康の異父妹が入嫁した戸田氏など家康の血統にも松平姓が与えられました。後



慶長5年(1600)伏見城攻図(本光寺常盤歴史資料館蔵)

関ヶ原合戦図屏風(関ヶ原町歴史民俗学習館)



に前田・島津・毛利・伊達などの外様大名にも松平姓を与えて親族とみなす手段として使われました。

秀吉の死

後、慶長五年（一六〇〇）九月の関ヶ原の戦いに勝利した家康は政権を奪取し、同八年の征夷大将軍就任、同十九、二十年の大坂冬・夏の陣を経て、徳川家の治世が安定していききました。

鳥居・青山・井伊など多くの家康直臣が活躍するようになりましたが、幾つもの家に分かれた松平一族もその列に連なり、徳川政権を支えました。

酒井・本多・石川・榊原・

第三章

幕府を支える一族

慶長十九年（一六一四）から翌年の大坂冬・夏の陣により大坂の豊臣の脅威が払拭されると、譜代大名領は全国に広がっていきました。江戸時代初期から中期にかけては徳川幕府の政策として諸大名の転封が多く、松平一族も、関東・東海・畿内・丹波に展開しました。初期から転封なく藩を維持した久松松平家の伊予国松山・今治、大給松平家の豊後国府内・杵築、深溝松平家の肥前国島原（一時期宇都宮に転封）は西国の外様大名や異国船の監視、長崎警固などの役目を持つ藩として長く続きました。

やがて松平一族は家康の血族である御三家、御家門家やその分家に比べると格下にはなっています。三河以来の譜代であること、本来の松平であること、家康のもとで功績を挙げたことによって厚い信頼が寄せられていました。このため、改易の危機が起

こつても松平の家名存続が重要視され、松平諸家は大名だけでなく、多くの旗本の家を成立させました。江戸時代の松平一族は、徳川の祖である松平としての誇りをもちながら徳川幕府を支えました。

今回の特別展では、譜代大名として全国の要所に配置された松平諸家に伝わる様々な資料を一同に集め、これまでになく規模で松平一族についてご紹介していきます。ぜひご来館ください。



松山城(愛媛県松山市)

特別展「家康と松平一族」に 関わる講座・イベント紹介

開館30周年記念特別展 家康と松平一族

関連イベント

特別展「家康と松平一族」記念

松平一族講座



※写真はイメージです。

開館30周年記念特別展「家康と松平一族」記念講座を開催。県内外で活躍する研究者を招き、松平各家についての最新の研究成果をお話しいたします。

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、催しに変更が生じる可能性があります。最新情報はHPをご確認ください。

— 令和3年 —

1月30日(土) 14:00～15:30

第1回

「『十八松平』の創出」

講師：平野 明夫氏(國學院大學講師)

第2回

2月6日(土) 14:00～15:30
「能見松平氏について」

講師：堀江 登志実氏(岡崎市美術博物館学芸員)

第3回

2月13日(土) 14:00～15:30
「形原松平氏と三河湾」

講師：小川 雄氏(日本大学文理学部助教)

第4回

2月20日(土) 14:00～15:30
「大給松平家の
発祥について」

講師：村岡 幹生氏(中京大学文学部教授)

第5回

2月27日(土) 14:00～15:30
「深溝松平家と当主家忠の日記
— 原本から読み解く『家忠日記』 —

講師：大嶋 聖子氏(淑徳大学アーカイブズ専門員)

第6回

3月6日(土) 14:00～15:30
「家康から名字を
授与された松平家」

講師：柴 裕之氏(東洋大学講師)

会 場

【メイン会場】安城市歴史博物館 講座室(30席)
【リモート会場】安城市歴史博物館 体験学習室(25席)

定 員

各回30人

※要事前申込み・定員を超えた場合は抽選

参加費

各回300円

※資料代

申込方法

〒住所・参加者の氏名・電話番号・希望の回を明記し、往復はがきにて歴史博物館(〒446-0026安城市安城町城堀30)までお送りください。定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。(はがき1枚につき1名の申込み受付)

※1枚のはがきで複数の講座のお申込みができます。
※複数の講座を希望する場合は、希望順位を明記してください。

■申込締切…令和3年1月17日(日) ※当日消印有効

漫画家 すずき孔さん描きおろし 武将パネルフォトスポット

安城松平四代



安城松平4代、
親忠・長忠・信忠・清康の
描きおろしキャラクター
パネルのフォトスポットが登場。
武将たちと撮影できます。

【期 間】令和3年1月30日(土)～3月7日(日)

【場 所】安城市歴史博物館

作画：すずき孔

和モノフェス



「刈谷城盛上げ隊」の演舞披露、甲冑や武将隊と撮影できる
スポット「鎧武者と撮影会」、和装コスプレイヤーが集まる
など、和に関するイベントを開催!!

【日 時】令和3年3月7日(日)
10:00～15:00

【場 所】安祥城址公園
安城市歴史博物館
ほか

安城コスプレ
オールスターズ
with 安城市歴史博物館
9:00～16:30

書 の 作品展示

書道家 山本祐司氏と安城高校書道部の皆さんによる特別展に関連する書の作品を展示します。

【日 時】令和3年1月30日(土)～3月7日(日)

【場 所】安城市歴史博物館エントランスホール

歴博 福よせ雛



特別展「家康と松平一族」にちなみ
家康や安城松平4代の武将たちを
雛で再現！皆様をほっこり笑顔に
します。

【期 間】令和3年1月30日(土)
～3月7日(日)

【場 所】安城市歴史博物館
安城市民ギャラリー

「さとのマルシェ」3月6日(土)・7日(日)10:00～15:00にて開催！

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、催しに変更が生じる可能性があります。最新情報はHPをご確認ください。

歴博 TOPIC

おかげさまで 入館者100万人を達成！



令和2年10月31日、安城市歴史博物館の入館者の累計が100万人を達成しました。
歴史博物館が開館したのは平成2年度。開館30年目を迎える記念すべき年度に、100万人目のお客様をお迎えすることができました。
入館100万人目となったのは、安城市在勤の盛田様とそのお孫様。お孫様が特別展「江戸の遊び絵つくり」で展示されていた国芳の作品をご覧になりたいということで、お越し下さいました。
当日のセレモニーでは、神谷安城市長、杉山教育長による、くす玉の開披や記念品の贈呈が行われました。



第10回 松平シンポジウム 良将ト感シ給フ — 広忠惣領時代の再検討 —

令和3年 2月14日(日) 13時～17時

場 所 「メイン会場」

安城市歴史博物館隣接
安祥公民館 大会議室(40席)

「リモート会場」

安城市歴史博物館 講座室(30席)

参加費 100円(資料代)

申込み 事前申込み
(当日受付不可)

出演者

コーディネーター

村岡幹生氏(中京大学文学部教授)

村岡幹生氏

平野明夫氏(國學院大學講師)

大石泰史氏(大石プランニング主宰)

【申込方法】

〒住所 参加者の氏名・電話番号を明記し、往復はがきにて歴史博物館(〒446-0026安城市安城町城堀30)までお送りください。定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。(はがき1枚につき1名の申込み受付)

【申込締切】1月26日(火) ※当日消印有効

松平広忠の連歌後紙切
(碧南市指定有形文化財 称名寺蔵)

